

# 仕 様 書

1. 案件名 藤原宮跡ARアプリ作成業務

2. 発注課名 世界遺産登録推進課

## 3. 業務の目的

藤原宮跡AR作成業務（以下、本業務という）では、世界遺産登録を目指す「飛鳥・藤原の宮都」の重要な構成資産である藤原宮跡において、市民及び来訪者に藤原宮跡の歴史的価値を学び理解を深めるために提供する、ARをはじめとするデジタル技術を活用したコンテンツを含むアプリを作成し公開することを目的とする。

藤原宮跡は、遺跡を構成する遺構の多くが地下に埋蔵されており、また大部分が未整備であることから、来訪者にとってその存在や歴史的価値を理解しづらい状況にある。そのため、橿原市藤原京資料室において解説パネルや藤原京復元模型、発掘調査出土品の展示等を通じて藤原宮跡の価値を伝えることを試みているが、藤原宮跡現地を訪れても具体的にどこにどのような建物があったかといったイメージが膨らまず、理解を深めることが困難であることが課題となっている。このような課題に対して、藤原宮跡現地において建物の復元CGや発掘現場の様子を表示することで、より具体的かつ直感的に遺跡の理解を深めることができるARの採用は効果が高いと言える。

なお、本業務は令和7～12年度にかけて実施予定の藤原宮跡、本薬師寺跡、菖蒲池古墳等の橿原市 世界遺産構成資産ARアプリ作成事業（別紙 全体計画書参照）の一部であり、令和7年度はその初年度として藤原宮跡を対象とするARアプリを作成し公開するものである。

## 4. 業務の詳細内容

日本初の瓦葺き宮殿である藤原宮跡の姿を効果的に伝える手法を検討し、藤原宮跡現地で使用できるARアプリを作成するとともに、これを活用する仕組みと環境を構築する。また、本業務期間中にアプリを一般に公開し、藤原宮跡の現地で利用が開始できるようにする。

詳細は、提案内容をもとに橿原市と受託者での協議の上、決定する。

### （1）アプリの作成

藤原宮跡の価値を理解できるアプリを開発する。アプリのコンテンツには、藤原宮跡現地で利用できるARを含むものとする。また、現地を訪れなくても利用可能な他の機能を含めてもよい。また、現地での機能についてもARと異なる手法を追加で提案してもよい。

アプリに含むコンテンツの例としては、藤原宮跡の復元建物等の高精細3DCG・発掘調査写真のAR、遺跡や歴史の各種解説が挙げられる。これらに使用する3DCG等の作成作業も本業務に含むものとする。

本業務では、藤原宮大極殿の復元CGのAR機能を含むものとする。

コンテンツの作成にあたっては、橿原市担当者及び橿原市が手配する学識研究者の監修を受けること。

3DCGについては、本業務完了後も活用ができるように考慮した形式とする。

作成するアプリは日本語の他に、英語をはじめとする多言語対応のものとする。

## (2) アプリの公開・利用

アプリは個人所有の一般的なデバイス（スマートフォン、タブレット）で利用できるものを想定しており、これに対応できる形式及び公開手法とすること。ただし、本業務で作成するコンテンツをこの形式のみに限るわけではない。

藤原宮跡内には車両が通行する道路や、水路や田畑等の起伏も存在しており、アプリを使用するユーザーの安全面にも配慮した設計とすること。

作成したアプリの利用者に対して、アプリが藤原宮跡の理解に参考になったか等のアンケートを実施すること。アンケート機能をアプリに組み込む形でもよい。

## (3) 業務計画の作成

受託者は事業計画をたて、実施体制や工期等の業務計画書を示すこと。

## (4) 打ち合わせの実施

本業務の履行にあたっては、必要に応じて協議を実施し、受託者はその都度、協議録を作成すること。特にアプリの作成については、最終成果品の納品までに、橿原市担当者及び橿原市が手配する学識研究者に対して中間報告を行い、承認を得ること。

## (5) 事業実施報告書の作成

本業務の内容を報告書として提出すること。

## (6) その他

本業務完了後に定期的な保守及び管理費用（利用状況の報告等を含む）や不定期のOS更新等への対応作業が生じる場合は、その内容と金額を月単位で提示すること。これらの本業務完了後の費用については、本業務の委託料に含めない。

## 5. 履行期間

契約日の翌日～令和8年3月31日

## 6. 成果品の検査及び納品

受託者は下記の成果物を提出し、橿原市の検査を受けるものとする。成果物の納品先は、橿原市世界遺産登録推進課とする。採用となった提案内容によっては、追加で納品を求める場合があるため、橿原市と受託者との協議の上、最終調整を行なう。

### ○ 成果物（各2部）

- ・作成したCGデータ一式（高精細静止画・動画）を収録した記録媒体。納品するデータ形式は、JPEGやTIFF、MP4等の一般利用が容易な形式とする。動画についてはHD：1,080P（1,920×1,080）以上のものとする。
- ・打合せ記録簿（印刷物及び電子データ）
- ・事業実施報告書（印刷物及び電子データ）
- ・その他、橿原市と受託者との協議の上、必要と認められたもの一式。

なお、前項の検査あるいは受託者の責に帰すべき事由により手直し修正のある場合は、受託者の責任において速やかに修正するものとする。また、本業務完了後に受託者の過失又は疎漏に起因する不良箇所等が発見された場合は、受託者の責任において速やかに処置するものとする。

## 7. 著作権の帰属

この契約により作成される成果物の著作権等の取扱いは、以下に定めるところによる。

- (1) 成果物の著作権（著作権法第 27 条及び第 28 条に規定する権利を含む。）は、橿原市に無償で譲渡するものとする。ただし、映像作品に含まれる第三者の著作物の著作権については、当該第三者に留保する。
- (2) 橿原市は、著作権法第 20 条第 2 項第 3 号又は第 4 号に該当しない場合においても、橿原市の事業において改変の必要があれば協議の上、決定する。
- (3) 受託者は、橿原市の事前の同意を得なければ、著作権法第 18 条及び第 19 条を行使することができないものとする。
- (4) 受託者は、映像作品に関わる著作権、著作隣接権その他一切の権利に関して、仕様書に定める使用範囲での使用に支障のないよう、必要な権利処理を受託者の責任と費用負担で行う。

## 8. 契約に関する条件等

本業務の契約金額には、本業務に関わる一切の業務を含む。

## 9. 貸与資料

受託者は、業務遂行上必要な場合、橿原市が所有する資料の貸与を受けることができるものとする。借用書を提出の上、貸与を受けることとし、本業務完了後は、速やかに返却しなければならない。

## 10. 印刷物・映像制作に係る撮影許可・写真等の使用

本業務の遂行にあたり、撮影許可及び掲載許可等の許可申請手続の必要が生じた場合は、原則受託者において対応するものとする。

## 11. 支払い

業務完了後の一括支払い

## 12. その他

- (1) 本業務の実施にあたっては、橿原市担当者及び橿原市が手配する学識研究者と適宜協議を行い、十分に調整して進めること。
- (2) 本業務の履行の結果、受託者の責に帰すべき事由により橿原市に対し損害を与えた場合、その賠償の責めを負うものとする。
- (3) 本仕様書に定めのない事項、あるいは疑義が生じた場合、又は本仕様書により難しい事由が生じた場合は、橿原市と速やかに協議し、その指示に従うものとする。
- (4) 本業務は、内閣府が募集する「新しい地方経済・生活環境創生交付金（デジタル実装型）」及び奈良県が募集する「令和 7 年度文化資源活用補助金」の採択事業であるため、その要綱やガイドラインを参考にすること。
- (5) この仕様書に明示されていない事項又は疑義が生じたときは、橿原市と受託者双方が協議の上、定めることとする。